

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果の分析 【村立中学校】

今年度は、5月27日(水)に全国学力・学習状況調査(国語・数学)が、3年生を対象に実施されました。国語・数学については、ともにそれぞれ50分の時間の中で、知識に関する問題や活用に関する問題が織り交ぜられた形で出題されました。これに加えて、アンケート形式の生徒質問紙で、主に生活の様子、学校や家庭での学習状況等を問う調査も実施されました。以下に、本校の今年度の結果の分析をお知らせします。

本校の結果を平均正答率で見ると、国語では全国平均を少し下回りましたが、大阪府平均と同程度でした。数学では、大阪府および全国平均を上回り、中でも「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」に関する調査は、府平均および全国平均を大きく上回る結果となりました。各教科とも大阪府や全国の無答率と比べて、全体的に無答率は低いものの、説明や自分の考えを記述する問題に関しては、他の設問に比べて無答率が若干高くなっています。ここ数年本校の課題として、知識や技能を活用する力や表現力の向上を目標に掲げており、徐々に成果が出ているものの、今後も本校の課題として取り組みを進めたいと思います。

また、生徒質問紙の結果を大阪府や全国と比較して、本校では次のような点に特徴ある傾向が見られました。

<肯定的な回答の割合が高い項目>

- ・朝食を毎日食べている
- ・いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う
- ・学校に行くのは楽しいと思う
- ・友達と協力するのは楽しいと思う
- ・住んでいる地域の行事に参加している
- ・コンピュータなどのICT機器をよく使っている
- ・生徒間で話し合う活動で、相手の考えを最後まで聞き、その考えを受け止め自分の考えを伝えている
- ・生徒間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができた
- ・発表する機会では工夫して発表することができた

<肯定的な回答の割合が低い項目>

- ・1日当たりのゲーム等をしている時間の長さ
- ・自分にはよいところがあると思う
- ・自分でやると決めたことはやり遂げる
- ・難しいことも失敗を恐れず挑戦している
- ・人が困っているときは進んで助けている
- ・思っていることや感じたことをきちんと言葉であらわすことができる
- ・家で自分で計画を立てて勉強している
- ・授業以外の1日の勉強時間の長さ
- ・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある
- ・学んだことをもとに新しいものを作り出す活動を行っている
- ・学習した内容について見直し、次の学習につなげることができている
- ・学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる
- ・新型コロナウイルス感染拡大による休校期間中、規則正しい生活を送っていた



◆◆続いて、各教科の分析です◆◆

【国語】

今回の結果を平均正答率で比較すると、本校の平均正答率は全国の平均を少し下回りましたが、大阪府平均とほぼ同程度という結果でした。領域別に見ると、「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては、大阪府および全国の平均を上回ったものの、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」においては、大阪府および全国の平均を下回る結果となりました。特に、「読むこと」が全国の平均を大きく下回る結果となりました。

設問別に見ると、意見文を読み、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く問題や、伝えたい事柄が相手に伝わるように書く問題は、全国および大阪府の平均を上回り、「書くこと」に関する力の定着が窺えます。しかし、文章の構成の工夫を考える問題に関しては、大阪府の平均を上回ったものの、全国の平均を下回る結果となり、課題の残る結果となりました。

「読むこと」に関しては、文脈における語句の意味の理解や、場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読むことに関して、全国の平均を大きく下回る結果となっており、日ごろ文章を読む際に、ただ読むだけでなく、先の場面の展開や、登場人物の心情を考えながら読むことや、文章の語句の意味を調べることを、考えながら読むことが必要だと考えられます。

今回の結果を受けて、文章を読む際の工夫や作者の捉え方を考えることや、文章中に出てくる語句の意味を考え、登場人物の心情や作者の意図を掴み、自分の考えを持つことのできる授業づくりや課題設定をしたいと思えます。

【数学】

今回の結果を大阪府および全国の平均正答率と比較すると、本校の平均正答率は、大阪府および全国の平均を上回る結果となりました。領域別に見てみると、「数と式」の分野では全国平均を上回ったものの、「図形」、「関数」、「資料の活用」の分野では、全国平均を若干下回る結果となりました。

設問ごとに見てみると、「数と式」の分野で、文字を用いた式の四則計算の問題や、文字式を用いて説明する問題で、特に正答率が高い結果となりました。それとは逆に、「関数」の分野では、与えられた表やグラフを用いて問題解決の方法を説明する問題、「資料の活用」の分野では、データの傾向を読み取り、比較して説明する問題の正答率がそれぞれ全国平均を下回っており、課題の残る結果となりました。

問題形式で結果を見ると、記述式の問題で、本校の正答率は全国平均を下回っています。

総合的に見て、数学的な技能や、数量や図形などについての知識・理解に関しては、一定の成果は出ていると考えられます。これについては、日頃から、授業の冒頭の小テストなどで基礎基本の定着を図り、修得した知識・技能の活用を促す課題設定などに取り組んでいる結果であると考えられます。一方、数学的な見方・考え方、特に、「関数」「資料の活用」の分野において、数学的に説明する力に課題が見受けられます。

今回の結果を踏まえて、今後さらに知識・技能の確実な定着を図り、数学的に説明する力の向上を目指して、授業づくりや課題設定を工夫していきたいと思えます。